

令和2年度

兵庫県立視覚特別支援学校

支援部

アイ・あい だより



11月号

日本点字制定記念日

点字の始まりをご存じですか？

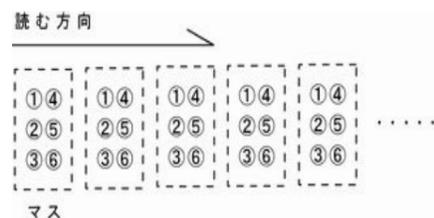
1800年頃、フランス人の軍人が暗号を伝えるための軍事用文字として開発しました。その文字は12点でしたが、1825年頃、フランスのルイ・ブライユが6点式の点字を考えだしました。そして、各国の言語に合わせて改良され、世界に広がったのです。



日本にこの点字が紹介されたのは1880年頃のことです。しかし、文字がアルファベットだったため、日本のかな文字を点字にする研究がすすめられ、1890年11月1日、東京盲啞学校（当時）の石川倉次が考案したかな文字の点字が、日本の点字として採用されました。これ以降、11月1日は「日本点字制定記念日」となりました。石川倉次は「日本点字の父」とたたえられています。

簡単に点字の構成について紹介します。

点字は、縦3点、横2列の6つの凸点の組み合わせで構成されています。この6点のまとまりを「マス」と言います。点字はすべて横書きで左から右へ凸面を読んでいきます。



点字の50音は、一つのマスの中で子音となる点と母音を組み合わせることで表すことができます。母音は ア^① イ^② ウ^③ エ^④ オ^⑤ となります。例えば「アカ」は ^① ^⑥ となります。母音のアは①の点、カ行は⑥の点なのでアと組み合わせることで「カ」となるのです。

身近に点字で表記されているものがあります。ぜひ、お酒の缶、ソースなどの点字を探してみてください。

Field Of View

周辺の視野狭窄の原因となる眼疾患の代表的なものに網膜色素変性症があります。光を感じる組織である網膜が、遺伝子のキズが原因で少しずつ障害を受ける病気です。人口約4000~8000人に1人の割合で患者さんがいるとされています。遺伝子のキズと聞くと必ず遺伝なのか？と感じるかもしれませんが、しかし、遺伝形式は様々で、家系に同じ病気の人が確認できず、その遺伝形式が推測できない「孤発型」が半数を占めます。遺伝の確率が高いとされる常染色体優性遺伝の患者さんは全体としては少なく、必ずしも子供や孫に遺伝しやすい病気ではありません。



特徴的な症状としては、暗いところで物が見えにくい、視野狭窄、視力低下の3つがあります。網膜色素変性症は難病指定になっている病気であり、幼児期に始まり少しずつ進行しながら、視野が狭くなったり視力が低下したりします。網膜色素変性症では、初めに、周辺の視野や暗い中で光を感じる働きを担う杆体細胞が侵されるので、暗いところで物が見えにくい、視野狭窄が自覚症状として現れます。そのため、暗い所になるとつまずいたり、よく物にぶつかったりするといった症状で「おかしいな…」と気付く場合もあります。



網膜色素変性症の見え方は、外側からの視野狭窄で中心部分が見える求心性視野狭窄が代表的です。失明に至る人もいますが、視力が保たれている人は、中心部分で字を読むことができます。しかし、上下左右の周りの様子が見えないため、横から来た人にぶつかってしまったり、足元が見えにくくなるため、階段が苦手だったりすることが多いです。

屋外では、太陽の光に強い眩しさを感じる人もいます。屋外で活動する際には、遮光眼鏡を眼科医に処方してもらうことで、目をしっかり保護することができます。遮光眼鏡をかけていることで、みんなと見た目が違くと、気にしてしまう子供もいるので、心に寄り添うことが必要です。

